

十勝組 第9期

# 連研通信

十勝組 研修部

二〇一二年六月九日、本願寺帯広別院にて、第十二回連研が開催されました。七カ寺から二十二名の参加でした。

開会式では、全員で「正信偈」のおつとめをいたしました。



（広尾・光音寺）  
合掌・礼拝、お焼香、お荘厳（おかざり）を

ふりかえりました。

話し合い法座のテーマは「社会の問題と仏教や真宗はどう関係するの？」

念仏の生活に社会や世間のことは関係ないのじゃ?」。

話し合いの前に「現在かかわったり

課題だと思ったりしている関心事は何ですか?」と問いかけたところ、法座の話題として出てきたのは、ちょうどTVや新聞などで大きく報道されていた、オウム真理教や通り魔の話などでした。

これらのは、もちろん大きな問題です。でも、どちらかというと「他人事」である場合が多い「課題」であるように思います。

仏教や浄土真宗の教えは、「よくあるおおごと」と言いますか、もっと身近な課題から出発します。

目立って大きなものではなく、まず生老病死の問題があります。



普段のわたしたちは、生老病死を「他人事」のように思っています。に思っていますが、ときどき、「わたし」や「あなた」という、身近なところで現実に生老病死の出来事が起こります。そのことが、仏教や、浄土真宗の教えからの問いかけにもなっているのです。

自分自身の大問題を、普段は「他人事」と見ているようなわたしのあり方。一方で、現実の社会のいろいろな問題に対しても、無関心で接したり、あるいは逆に、ワイドショー的に、事実関係を必ずしもきちんと知っているわけではないのに、それでも「全部知っているつもり」になったところから考





えてしまうような、私自身が問われる  
 のです。  
 生老病死は、現実には、現在たった今、  
 待ったなしの「わたし」の話なのだけ  
 ど、そうは受け取っていけない。  
 また一方で、社会的な犯罪や課題を  
 他人事にしてきた「わたし」もいるの  
 ではないか。  
 社会の中のいろいろな問題も、特殊  
 な人や、大都会だけの話ではなく、そ



ういう人々を作  
 り(生み)出し  
 てきたのは、じ  
 つは「わたし」  
 の無関心や他人



事にしてきたあり方だったのでではない  
 でしょうか。  
 〈了〉

